

## 第 2 回 北茨城市地域公共交通会議 会議録

会議の名称	第 2 回 北茨城市地域公共交通会議
開催日時	平成 22 年 2 月 24 日（水）午後 1 時 30 分から 3 時 00 分
開催場所	北茨城市役所 2 階庁議室
出席者	別紙 1 のとおり
会議の議題	<b>会長挨拶</b>
および会議の内容	<p>本日は、皆様ご多忙のところ「第 2 回 北茨城市地域公共交通会議」にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本日は第 2 回目ということでございます、前回は昨年 3 月の開催でしたが、第 2 回の開催までにかかなり時間が空いてしまった事をお詫びいたします。</p> <p>さて、北茨城市の市民の足としましては、電車・バス・タクシー等の公共交通サービスがございましたが、それだけではなかなか十分ではないというのが現状です。</p> <p>第 1 回の会議では従来の市巡回バスによる通勤や通学、買い物や通院などの生活交通の支援ばかりでなく、その他の交通サービスによる「交通弱者への生活交通支援」も含めて、本市の全域に広がる生活交通ネットワークをどのように構築して行くかという事についてご意見をいただきました。</p> <p>この間、議会でも「公共交通会議ではどのような方向性で議論を行っているのか」等のご質問をいただくこともありまして、議員の皆様方や市民の皆様方が強い関心を持っているという事を実感し、改めてこの会議の持つ重みを感じております。</p> <p>このような状況を受けまして、北茨城市としてはまず、交通弱者の大半を占めている高齢者、特に老老世帯（高齢者のみで構成されている世帯）・高齢者の独居世帯が市内のどの地域にどれくらい分布しているのか、またその世帯の方々が生活交通にどのようなニーズを持っているかを把握するため、高齢者を対象にした生活交通についてのアンケートを実施いたしました。</p> <p>本日の会議ではこれらの報告等も検討材料にいただき、委員の皆様には、本市の実情に合った公共交通システムの構築に向け、忌憚の無いご意見をいただくことをお願い申し上げまして、私のご挨拶に代えさせていただきます。</p>
	<b>新任委員の紹介</b>
	前回会議から変更になった委員（新任の委員）、代理出席の委員の紹介
	<b>会議の成立について</b>
	18 名中 14 名が出席しているので、要綱に基づき、本会議が成立したことを報告
議 事	議題に先がけ、「参考資料 65 歳以上の老老・独居世帯分布状況」について、資料とスクリーン（プロジェクタ投影）での拡大画面を交えて説明
	<b>議題 1 市巡回バス及び生活交通についてのアンケートの結果について</b>
	【資料に基づき事務局より説明】

議 事	<b>議題 2 市巡回バス利用者アンケートの結果について</b>
	【資料に基づき事務局より説明】
	<b>質疑応答</b>
	<p>◆議長</p> <p>アンケートの結果を見ても、現状の市巡回バスを含めた公共交通では満足していないということが分かり、また、先ほどの 65 歳以上の高齢者の分布図を見ても高齢者の独居や老老世帯はバスだけではカバーしきれていないということが分かりました。</p> <p>こういった調査を行ったのは今回が初めてですが、市内の公共交通の現状を浮き彫りにすることができたと思います。</p> <p>こういった問題を踏まえて、改善を行っていくためにも皆さんにご意見をいただきたいと思います。</p> <p>それでは、先日「くらしを支える足の確保を考えるつどい」に成松委員、高松委員、石原委員が参加しています。この結果等も踏まえましてご意見等はございますか。</p> <p>◆石原委員</p> <p>まず、このマップを見ても多くの世帯が集まっている地域はカバーできていることは分かりますが、カバーしきれてない地域にお住まいの方々をどうやってサポートして行くかというところが論点になると思います。</p> <p>このマップはバスがメインで、福祉有償運送とか過疎地有償運送、タクシー等でカバーされている部分は反映されていません。</p> <p>また、このアンケートも全体の統計として捉えて出した数字ですから、マイカーを利用したくてもできない方、家族の送迎に頼るしかない方等、もっと細かい部分について突き詰めて分析する必要があると思います。</p> <p>◆議長</p> <p>ありがとうございました。バスのルートの整合性はある程度確認出来たが、更なる施策の充実となると、ニーズを丁寧に抽出して行かなければならないというご意見であったと思います。</p> <p>◆石原委員</p> <p>アンケート調査票を拝見した範囲では、そのようなニーズもこのアンケート結果から抽出することはできると思いますので、改めて調査を実施する必要はないと思います。</p> <p>◆高松委員</p> <p>2月8日に茨城県公共交通活性化会議の主催による公共交通シンポジウムに参加させていただきました。こちらは公共交通、即ちバス・鉄道・タクシー等をもっと効果的に活用する方法を考えましようというような内容でした。</p> <p>また、昨日2月23日には私共（茨城福祉移動サービス団体連絡会）と県社会福祉</p>

## 議 事

協議会との共催により「暮らしを支える足の確保を考えるつどい」を開催しました。

これらのシンポジウムと今回のアンケートの結果を踏まえて考えますと、まずこのアンケートと分布図は高齢者が対象となっていますが、これは「公共交通は高齢者のための交通手段とする」ということでしょうか。バスというのはマス効果ですから大量輸送手段です、大量に乗せられるのに少数の高齢者を乗せるようであれば、そこには利便性や対価等の問題が出てくるのかなと思います。

アンケートの結果を見ると男性の高齢者は自分で運転ができる限りは、バス等の公共交通手段を使わなくても生活交通をまかなっていく事はできるのかと思います。

しかし、高齢者の死亡事故等も多くなっています。高齢者に対し免許返納を呼びかけるまでは行かないまでも、免許を使わないでも暮らしに困らないような、そんな地域社会を目指していくということ为先日のつどいでもお話しいただきました。

何が言いたいかという、バスは大量輸送手段ですので全体を大枠でしか捉えられませんが、通勤・通学とか、日々の買い物での利用とか、もっと個別の目的ではどんな交通手段が望まれているのかを考え、例えばタクシーを効果的に使えるような方法を市と事業者で協議するとか、もっと色々な手段について委員の皆さんの知恵を出し合うべきではないかと思っております。

その他の交通手段として、福祉有償運送や、地域住民の相互扶助による移送手段は過疎地有償運送で出来ないかとか、デマンド交通システムをタクシー会社に委託することで導入できないか等様々な移送手段を提案させていただきました。

総括としては、このような問題に本気で取り組んでいかないと、市町村ごとに温度差があると、将来的は取り残されてしまう地域が出てきてしまうのではないかという危機感がありまして、この様な場で皆さんと真摯に意見を交わして、よい街づくり・公共交通システムを検討して行くべきではないかと考えております。

### ◆議長

ありがとうございます。バス以外にも様々な公共交通手段を検討していくべきではないか、また、もう少し細かい部分までニーズを分析して行かなければならないという事だったと思います。

### ◆成松委員

まず確認したいのが、市内全体の公共交通を検討するというのが会議の主旨であり、その中で今回はバスという部分でアンケートを取って、バスを利用できない方の意見を吸い上げてこれを課題として検討することにより、公共交通の全体の話に広げていこうということで宜しいですか。

### ◆議長

市が行っている公共交通サービスが市巡回バスですので、まず、市巡回バスのアンケートを取らせていただきました。市としても市巡回バスだけで十分であるとはと考えておりませんでした。アンケート結果からもその現状が浮き彫りになりました。そこで、市巡回バスだけではなく、先ほどの福祉有償運送とか過疎地有償運送やタクシー等の有償サービスといった交通手段も併せて、これらの連携を含めた市全体の公

公共交通のあり方を見出していくというのがこの会議の主旨だと捉えております。

◆成松委員

そうしますと、市が行っている既存の公共交通サービスが市巡回バスなので、このアンケートの結果を基にダイヤやルート、運行本数やバス停等を検討して、市巡回バスを充実させて使い勝手を上げていくという考え方がまず1つあると思います。

しかし、この運行時間帯を見ると市巡回バスは高齢者の輸送対策の手段として捉えることしかできない部分があると思います。

この会議には中学校の校長先生も委員になっています。県内でも小中学校の生徒の登下校中の事故というのも多くなっています。こういった通学輸送的な部分、学校の統廃合に係るスクールバス等も含めて考えるという必要もあると思います。

併せて、北茨城市内にも福祉有償運送サービス事業者があります。このサービスは障害を持っている等で歩行などが困難な方を対象としています。バスは健常の方を対象としているとしますと、この2つの間に位置する方に対して、どのような支援が必要かも考えなければならないと思います。

今回、事務局で作成した老老・独居世帯の分布図やアンケートを分析して、「この地域にはどんな移送手段が適しているのか」ということを他市町村の事例を参考にこの場で検討するという方法があります。

県内15市町村でデマンドタクシーをやっていますが、これは使う人にとっては便利な手段ではあるのですが、年間の経費が5,000万、6,000万を超えてしまうシステムなので、将来的に持続可能かということ、そうではないと言うことができます。こういった情報等もオープンにして行きながら、検討することが必要だと思います。また、出来るだけ住民を巻き込むようにしていかなければなりません。

例えば、日立市の中里地区は住民が輸送ボランティアとしてNPOを立ち上げて、地域から会費をいただきながら運行しています。このような形であれば、本当に移送手段が必要な方だけが集まって来ます。

県南地域でバスのアンケートを取ると、乗らない人でも「バスは必要」という回答が多くなります。しかし、この方々に運賃の話をして「乗りません」となってしまう。ついては、運賃や経費等の話もオープンにしなが、住民が本当にどんな交通サービスを望んでいるのかを見据えていく必要があります。

先日のシンポジウムでもあった話ですが、「40歳以下の約9割の方が運転免許証を持っている。しかし60歳を超えてくると免許証を持っているが少なくなっていく」ということがあります。今は運転できるという高齢者の方も、5年後、10年後には運転できないということも見据えて早めに検討して行かないと、5年後、10年後になってから検討するのは、先ほどの高松委員のお話にもあったように、県内でも地域による交通格差が生まれているだろうと思いますので、今回、こういったデータを取って、今後のあり方を決めていこうというのは、ありがたいことであると思っています。

市民の方もこの検討に参画してもらえば、本当に将来的にも持続可能な公共交通の維持が出来ると思っています。

◆議長

ありがとうございました。今のお話では、ターゲットを絞って、その方々にどんな交通手段が必要かということを考える、まずは事務局で他市の事例、タクシーの利用補助とか、住民が主になって運行しているデマンド交通とか色々な方式があるので、そういったものを次回会議までに事務局に調べてもらって、本市の実情に合っているのはどんな交通手段なのかということを決めて次回会議で検討するという事だったと思います。道路管理者として草野委員から何かございますか。

◆草野委員

市内の道路としましては、限られた予算の中でも出来るだけの整備を行っておりますが、先ほどのアンケート結果の中にも「道路が狭いのでバスが入って来れない」等のご意見もありました。私としましては、市内にそういった道路が多く存在していて、もっと整備を進めなければならないという現状を改めて確認することができました。

## ◆議長

ありがとうございました。先ほど通学時の交通手段というお話もありましたが、山形委員から何かございますでしょうか。

## ◆山形委員

現在、学校統廃合について、アンケートや地区の説明会などを行っていますが、この中で保護者の方から出てくる意見としては「子供たちの通学路はどうなるのか」ということで、こういった部分も統廃合に向けての課題になっています。

私は以前、先ほどお話にも出ました日立市の中里地区の中里中学校に勤務していたことがあります。中里中学校ではスクールバスがありまして、こちらは地域の方が福祉タクシーみたいな形で利用が出来るようになっていました。

この様な形であれば、山間や遠くの地域からも通学することが可能です。北茨城市では、市巡回バスが子供たちの通学の足となるのかどうかは分かりませんが、通学の足の問題については、危惧されている問題であるということがあります。

また、先ほどのアンケートの中に「市巡回バスを利用しない理由」という項目がありました。この回答の中に「運行路線やダイヤがよく分からない」また「市巡回バスを知らなかった」という回答がありました。まずはこれを無くして行くということも必要なのかなと思いました。

## ◆議長

ありがとうございました。高萩警察署さんからは何かございませんか。

## ◆益子委員

安全のことを考えると、こちらからはお願いすることの方が多いので恐縮ですが、高齢者への支援、生徒児童の通学の支援ということは、料金等の事もありますが是非ともお願いしたいところではあります。

また、高齢者の免許証返納制度というものがあります。これはデリケートな問題でして、こちらから「返してください」とは言うことができないのですが、こういった制度があるということは周知していかなければならないと考えています。

県南地域では「免許証を返納すれば、バスの回数券を補助します」等のメリットを用意した上で、この制度を周知しているところもあります。

また、先ほどの道路整備のことにつきましても、出来るだけ整備を進めていただきまして、先ほどの分布図で幹線から離れた所に住んでいる方が、バスが通る幹線まで出てこられるようにしていただけたらと考えております。

私も、小・中・高と北茨城市内に住んでおりましたので、その時と比べますと、今はバスが路線も本数も減ったと実感があります。昔は一家に一台だった自動車も、今は免許証1枚につき1台という時代になっていますので、バスの運行も昔に比べるとかなり厳しい状況になっているとは思いますが、通勤・通学の足や高齢者の生活の足として考えても、出来るだけ拡張をしていただければと考えております。

例えば、極端な例になりますが、年金の支給日は高齢者の外出が多いということでこういったタイミングに併せてバスを増便する等、利用者の便に合わせた運行ということも考えてみてはいかがでしょうかと思います。

## ◆成松委員

今のお話にありました、免許証返納による公共交通サービスの割り引き等のインセンティブについてですが、県内だと守谷市さんが免許証返納証明書を提示すればバスを無料化するという制度があります。また年金支給日については商工会と協力して、帰りの片道運賃を補助するという取り組みをしています。

北茨城市さんは、現在はバスしかないという状況ではありますが、自動車からそれ以外の公共交通機関に変換して行くように促すための取り組みは考えられると思います。

議 事

◆高松委員

先日のシンポジウムでもお話がありましたが、県の行ったノーマイカーデーの集計によると、県内の9割の方が自動車通勤しているということです。

例えば、少し乱暴な言い方かもしれませんが、市が環境問題や公共交通への理解と問題提起を目的にして、毎月この日は自動車以外の公共交通手段を使って通勤・通学をするということを条例にしてしまうということはやはり難しいですか。

◆石原委員

県としても、ノーマイカーデーを条例とすることは難しかったという経緯があります。公共交通機関（バスや電車）のダイヤや運行本数の問題や、運行エリアの問題等で公共交通機関を使うと通勤時間に間に合わないとか、そういった条件下の方もおりますので、あくまで協力を呼びかけてお願いをするという形でノーマイカーデーを実施しました。公共交通機関のあり方を考えていただくという目的のための手段として実施した部分もあります。

北茨城市さんも公共交通機関の利用の呼びかけという形で実施するというやり方はあると思いますが、そこでバス・タクシーと限定してしまうのは難しいので、まずは自動車の相乗りなども含めて、公共交通機関を使ってみてはいかがですかというところから段階的に市民のみなさんに公共交通について考えていただくという取り組み方はあると思います。

◆高松委員

昭和30年あたりはほとんどの方が、移動の際にバスや電車を利用していましたが、今は個人の利便性の問題からか自動車での移動がほとんどになっています。

私の考える「公共」というものは、「私は使わないから、必要ない」というのではなくて、例えば「私は公園を使わないけど、公園は必要だ」というような物のことだと思っています。

◆議長

ありがとうございました。皆様からは様々な前向きなご意見、この先の本市の公共交通を考える上で、ヒントになりそうなご意見を多数いただきまして、深く感謝しております。

今回の議題の結果としましては、市の公共交通サービスは市巡回バスだけでは不十分であるという共通の認識を会議として持ったということ、また、アンケート回答結果を踏まえると市巡回バスのPRの問題やバスの運行内容の充実の問題、またバスの空白地域のどのように救って行くか、この方法については様々なご意見をいただきましたが、それを出来るだけ住民も巻き込むような形で、費用対効果も含めた上で検討して行くということであったと思います。また、ノーマイカーデーなど公共交通を考えていただく上で、プラスアルファになるようなご意見も出されました。

これらの意見を事務局にまとめていただいて、次回に繋げ、もう少し踏み込んだ部分まで議論して、北茨城市の市民の足を考えて行きたいと考えております。今後の本会議の方向付けとしてはこれでよろしいでしょうか。

【異議なし】

◆議長

ご了承いただいたようですので、次に進めさせていただきます。  
「4 その他」について事務局から説明してください。

<p>その他</p>	<p><b>① 磯原駅～中郷ニュータウン～高萩協同病院線の運行について</b></p> <p>第1回会議の議題、市立総合病院及び高萩協同病院の通院者に対するアンケート調査結果でも要望として挙がっていた、磯原駅から中郷ニュータウンを経由して高萩協同病院へ向かうバス路線が、日立電鉄交通サービスさんの新路線として、平成21年12月1日から運行開始となった。運行開始の経緯や現在までの運行状況について、永沼委員から説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南中郷駅～中郷ニュータウン線の昼間の運行分を廃止して、その分を新路線として磯原駅～中郷ニュータウン～高萩協同病院線とした</li> <li>・想定していた通り、午前中の便は北茨城市内から協同病院へ移動。昼の便は、中郷ニュータウンから上桜井の商店群への移動、午後の便は協同病院から北茨城市内への移動という利用状況がうかがえる。また予想以上に磯原駅への降車が多い</li> </ul> <p>事務局から、乗降を制限していた市巡回バスの中郷ニュータウン内のバス停について、平成21年12月5日からこの制限を撤廃し、市巡回バスでも乗降可能にすることにより、減便となった南中郷駅～中郷ニュータウン線の日中の便を市巡回バスによって補うことを説明。</p>
<p>その他</p>	<p><b>② 市巡回バスの平成22年4月1日の改正内容について</b></p> <p>事務局から改正内容について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイヤについて <ul style="list-style-type: none"> <li>JRのダイヤ改正による影響もなく、大きな要望もなかったため、今回のダイヤ改正は予定していない</li> </ul> </li> <li>・バス停についても、 <ul style="list-style-type: none"> <li>ルート変更や新規バス停の増設は予定していない</li> </ul> </li> <li>・バス時刻表 <ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年4月1日分として発行。その際には、出来るだけ見やすいものになるよう改良を行う。また、バス停に張り付ける時刻表についても字を大きくする等、従来の物より見やすくになるよう改良を行う。</li> </ul> </li> <li>・路線ごとの料金設定の見直し <ul style="list-style-type: none"> <li>地域巡回バスの大津港駅から華川町方面に運行している中央線は「磯原駅を通過する際に100円追加」、大津港駅から石岡スポーツ広場間を運行している南部線は「磯原駅を通過する際に100円追加」としていたが、これを撤廃することにした。</li> </ul> </li> </ul>
<p>閉会</p>	<p>報告事項についての質問等はなかったため閉会</p>

## 第 2 回北茨城市地域公共交通会議出席者名簿

要綱に掲げる委員	委員選出団体	委員	出欠
市長が指名する市の職員	北茨城市	副市長 石田 奈緒子	出席
		市長公室長 白橋 茂	出席
一般旅客自動車運送事業者及びその組織する団体	茨城県バス協会	専務理事 瀬谷 憲雄	欠席
一般乗合旅客自動車運送事業者 (路線バス事業者)	日立電鉄交通サービス(株)	バス事業部 業務部企画課長 永沼 人士	出席
一般貸切旅客自動車運送事業者 (貸切バス事業者)	(有) 太陽タクシー	取締役 部長 山形 公一	出席
一般乗用旅客自動車運送事業者 (タクシー事業者)	茨城県ハイヤー・タクシー協会	専務理事 大山 義勝	欠席
住民又は利用者の代表	北茨城市老人クラブ連合会	会長 伊藤 淳一	出席
	日立製作所北茨城通勤会	事務局長 加藤 登志幸	出席
	北茨城市校長会	磯原中学校長 山形 一男	出席 (代理)
	北茨城市社会福祉協議会	管理計画課 根本 博行	出席 (代理)
	北茨城市連合民生委員児童委員協議会	会長 山田 光雄	欠席
	茨城福祉移動サービス団体連絡会	NPO法人ウィラブ北茨城 代表 高松 志津夫	出席
関東運輸局茨城運輸支局長又はその指名する者	関東運輸局茨城運輸支局	運輸企画専門官 成松 浩二	出席 (代理)
一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体が指名する者	日立電鉄バス労働組合	執行委員長 吉村 健一	出席
茨城県警高萩警察署長又はその指名する者	高萩警察署	交通課長 益子 敏明	出席
道路管理者	茨城県土木部高萩工事事務所	道路整備第二課長 草野 一夫	出席
その他交通会議が必要と認める者	茨城県企画部企画課交通対策室	係長 石原 均	出席 (代理)
	北茨城市商工会	上遠野 忠浩	欠席

事務局 (北茨城市企画政策課)	企画政策課長	鈴木 元
	企画政策課 課長補佐	鈴木 幸男
	企画政策課 主幹	佐藤 直明